

# 宮農情報

## 水稲

高品質・高収量の稲づくりに向け、出穂期以降は水管理と病害虫防除を特に注意し、こまめな圃場巡回を心掛きましょう。



### 出穂期以降の水管理について

根の機能を向上させ、登熟歩合と千粒重を高める水管理が必要となります。出

穂から開花にかけての10日間は、水を多く必要とする期間ですので、5～6cm程度の湛水管理を行います。その後は2～3cm程度の浅水で間断灌水を行います。

完全落水は、登熟歩合や圃場の排水良否などを考慮して決めますが、登熟向上を図るため、出穂後30日を日途にして下さい。落水時期が早まると、葉茎の活力が衰え、腹白・青未熟米・死米・胴割米・秕などが多くなり、収量や整粒歩合の低下になりますので、ご注意下さい。

またカドミウムが発生しやすい地域では、8月25日まで湛水管理を実施するようにして下さい。

出穂期以降の病害虫の被害は、直接収量や品質に影響しますので、早期発見・早期防除に努め、こまめな圃場巡回で予察情報に注意しましょう。

### 病害虫防除について

#### 【穂いもち防除】

育苗期防除、葉いもち病防除を実施し、持ち込み発

生田から伝染の影響の無い場合は、穂いもち病の必要はありません。ただし、葉いもちが発生している圃場が隣接している場合は、出穂期～7日後に予防剤の茎葉散布を行うようにしましょう。持ち込み等で葉いもちが多発している場合は、傾穂期の追加防除を行います。



#### 【斑点米カメムシ類防除】

カメムシ類は雑草地に生息し、出穂期頃から水田に移動して、成・幼虫が登熟期の籾に付いて斑点米を発生させます。管内では近年、アカスジカスミカメが多く発生しており、昨年は

大きな被害をもたらしました。

#### ①薬剤防除

薬剤防除は出穂期の10日後頃の長期残効剤（スタークル、ダントツ剤）の1回防除を基本とし、多発が予想される場合は1回目散布14日後に追加防除を実施します。今年も多く発生することが予想されますので、今後の予察に注意しながら、確実に防除を行って下さい。地域で一斉防除を行うと、より効果的です。

#### ②雑草管理

収穫前2週間前までは、畦畔農道などの草刈は控えましょう。出穂後やむをえず草刈りを行う場合は、草刈後に畦畔を含む水田全体に薬剤を散布するようにして下さい。

水田内に、イヌホタルイ・シズイ等のカヤツリグサ科雑草や、ノビエ類が多発している場合は、アカスジカスミカメの水田内への侵入を助長するため、水田内の雑草対策を徹底して下さい。